

北海道新聞(夕刊)

2008年(平成20年)12月16日(火曜日)

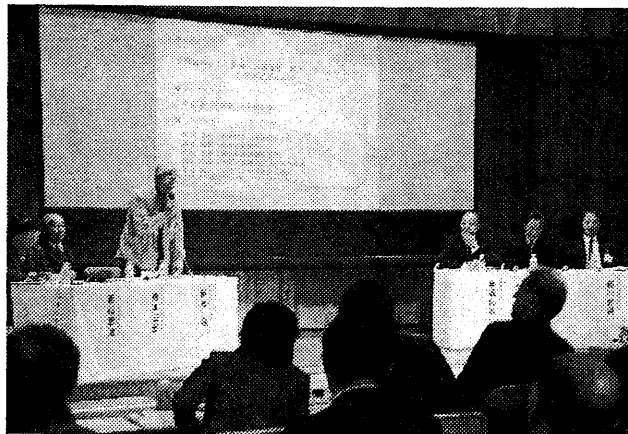
旭川 8

防災とまちづくり語る

十勝岳ワークショップ

美瑛

【美瑛】十勝岳山麓地域住民ワークショップPin美瑛(北海道火山防災サミット2008十勝岳地方実行委主催)がこのほど、町民センターで開かれ、美瑛、上富良野両町の住民や研究者らが火山防災とまちづくりなどを話し合った。



新谷名誉教授らが意見交換したパネル討論

ことを振り返り、新谷名誉教授が「防災に関する住民の知恵が土地利用に生かされ、災害を軽減して

ワークショップは火山防災をテーマに、一年おきに道内各地で開いている。今年は、十勝岳が一九八八年に噴火して二十年になるの

に合わせ、美瑛が会場に選ばれた。パネル討論は新谷融北大名誉教授がコーディネーターを務め、町民代表や美瑛町元助役ら五人が意見を交わした。十勝岳噴火後に白金温泉の道路整備やまちづくりが進められた

きた。防災と観光のまちづくりは住民や関係機関の連携が大切」とまとめた。このほか、岡田弘北大名誉教授をコーディネーターに、前回の噴火の教訓を学ぶ討論会も開かれ、約二百十人の参加者がメモをとりながら聞き入った。

(角和浩幸通信員)